

使い捨てレジ袋への規制 ～ニューヨーク市における導入の行方～

ニューヨーク事務所

全米で徐々に広まりつつある使い捨てレジ袋に対する規制をめぐり、ニューヨーク市の現状を報告します。

1 ビニール製レジ袋禁止の動き

2014 年 9 月 30 日、カリフォルニア州の Jerry Brown 知事が、スーパーなどの小売店におけるビニール製の使い捨てレジ袋を禁止する法案に署名しました。これに伴い、2015 年 7 月からは大型スーパーで、2016 年 7 月からは、コンビニエンスストアなど小規模小売店においても、ビニール袋の配布は完全に禁止されます。レジ袋が欲しい人は、有料の紙袋を購入しなくてはなりません。同様の条例は、サンフランシスコ市（2007 年）やロサンゼルス市（2010 年）、シアトル市、サンノゼ市（2012 年）などで既に施行されていますが、州レベルでは初めての試みとなります。

筆者も、出張でシアトル市に滞在した際、スーパーでビニール製のレジ袋が欲しいと告げたところ、「法律で禁止されている」と断られた経験があります。シアトル市では、少量であろうと大量であろうと、スーパーで提供されるのは全て紙袋でした。シアトル市のウェブサイトによると、シアトル市では 2012 年 7 月 1 日よりビニール製のレジ袋の配布が原則禁止されました。買い物客はレジ袋が欲しければ、再生紙で作られた紙袋を 5 セントで購入しなければなりません。

2 ニューヨーク市の現状

現在、ニューヨーク市では、上記のようなレジ袋に対する規制は行われていません。街中のコンビニエンスストアやスーパーで買い物をすると、レジ袋が無償で配布されます。市内の多くの店ではビニール製が使われており、紙袋の配布は一部のスーパーでのみ見ることができます。ニューヨーク市衛生局（Sanitation Department）によると、ニューヨーク市では年間約 52 億枚もの使い捨てレジ袋が使われており、それらの埋め立て処分に年間 1 千万ドルのコストが費やされているとのこと。また、残念なことにそれらの一部は路上や公園に捨てられ、時に側溝を詰まらせたり、時に鳥などの野生動物を危険にさらすなど、環境にも悪影響を及ぼしています。

このような現状の中、ニューヨーク市においても使い捨てレジ袋に対して何らかの規制を課すべきだという声が従来から挙げられています。既に規制を導入したロサンゼルス市では、使い捨てレジ袋の使用は 95% 減少したとされています。ごみの削減、そして処理に係る公的コストを抑えるという点で、規制が非常に有効であることが証明されたことで、この流れをニューヨーク市にも取り込みたい、と規制推進派は考えています。

現在、ニューヨーク市議会議員 Brad Lander 氏の提唱により議論されているのが、ビニール製・紙製を問わず、使い捨てレジ袋の使用にあたっては一律 10 セントを店側が徴収す

る、という案です。なお、徴収された代金については、店側の収入になるとされています。サンフランシスコ市やシアトル市など異なり、ニューヨーク市がビニール製レジ袋を禁止にしないのは、表向きにはリサイクルビニール袋の導入がかなり進んでいるためと言われていますが、一方でビニール袋製造業者などプラスチック業界からの大きな反発を避けるため、との声もあります。

本案については、2013年ニューヨーク市議会に法案として提出され議論が行われましたが、賛成議員の不足により、否決に終わっています。しかし、推進派議員はその後も、環境保護団体を始めとする有志と共に、様々なアピール活動を行っています。その甲斐あってか、現時点では、この案に対しては20名の市議会議員が賛成の意向を示しています。しかし、法案通過に必要な26名には依然不足している状態です。ちなみに、2014年1月に就任した Bill de Blasio 現ニューヨーク市長は、この問題に対しては立場を明確にはしていません。

3 ニューヨーク市導入がもたらすインパクト

前述のとおり、現在ニューヨーク市で議論されている案では、ビニール製レジ袋の配布自体は禁止されていません。そのため、ロサンゼルス市のような劇的な効果が期待できるかと言えば、少々疑問が残ります。しかしながら、全米のみならず世界屈指の大都市ニューヨークにおいて一定のレジ袋規制を導入することは、今後の流れに大きなインパクトをもたらすことが予想されます。

(藤井所長補佐 広島市派遣)

